

渋谷の代官山に直売所

マルシェ参加者らが共同運営

代官山市場

東京・渋谷区の代官山一帯は、ブティックや雑貨、レストラン、カフェなどオシャレな店がならぶ街だ。そんな代官山の一角、八幡通りから一本入った猿樂町に昨年、オーガニックや「ナチュラル」をコンセプトに、

農家らが共同で運営する直売所「代官山市場」がオープンし注目を集めている。「生産者と消費者の距離を縮め、こだわりを持った生産者がしっかりと利益を出せるようにしたい」と、この店の運営をしている美健（東京

都港区）営業部の平田康則さんは、意気込む。市場は、都内のマルシェやファーマーズマーケットに出店していた4団体が、共同運営の形をとっている。「週末だけの営業では、生活の一部として野菜を取り入れてもらうことは難しい。常設店にしてこそ生活者に受け入れられる」というそ

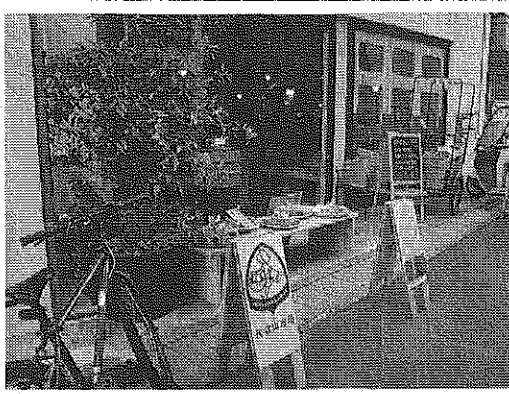
れぞれの思いが一致し、店を構えたという。参加するのは九州の野菜などを扱い、同店の経営を手掛ける「美健」、京野菜の「京都いね屋」、ベトナムやハムの「MARUTO」、加賀野菜の「五郎島農園」この他、プロレスラーの藤波辰爾さんや、季節ごとや月ごとに出展する団体などもあ

る。店舗面積は約115平方メートル。もとは材木屋だったという店内は、天井も高く広々している。内壁もテーブル、野菜棚などは手作り。木材の温かみを活かし、ナチュラルな仕上げで演出。

今後、店舗では自然派の料理を出すインショップを営業するほか、料理教室などのイベントも行うという予定。また、低温乾燥野菜やスロージュースで搾った野菜

を安心して購入してもらえよう、放射能測定器も設置する。「オープンしたばかりで内装なども発展途上。宣伝などは特別してないが、口コミでお客様がやってきてくれる。また、先日は北海道の生産者の方が噂を聞きつけ、直接訪ねてきてくれました」と横のつながりも広がっているようだ。

店舗ではデリバリーのほか、リヤカーでの出張販売なども開催予定だ。



オープンでおしゃれな外観の代官山市場（上）「生産者さんが本気で育てている野菜の味を知ってもらいたい」と平田さん

菜ジュースなども提供している。「この店をきっかけに、農業に関心を持ってもらえれば」と、生産者のこだわりや野菜の特性、料理の仕方など、「ミニマーケット」を大事にしながら野菜を販売。現在は70戸以上の農家が参加しており、今後も同店のあり方に賛同してくれる生産者や加工品業者を増やしセレクトショップのような形にしていく方針。また、近いうちに「東北応援コーナー」を設け、青果物や加工品

などを安心して購入してもらえよう、放射能測定器も設置する。「オープンしたばかりで内装なども発展途上。宣伝などは特別してないが、口コミでお客様がやってきてくれる。また、先日は北海道の生産者の方が噂を聞きつけ、直接訪ねてきてくれました」と横のつながりも広がっているようだ。

店舗ではデリバリーのほか、リヤカーでの出張販売なども開催予定だ。

店舗ではデリバリーのほか、リヤカーでの出張販売なども開催予定だ。

店舗ではデリバリーのほか、リヤカーでの出張販売なども開催予定だ。